

行政視察レポート

東京都・千葉県 令和7年1月20日(月)～22日(水)

総務文教委員会

■視察日時・視察先

- ①令和7年1月20日(月) 15:30～17:00 NPO法人CRファクトリー(東京都)
- ②令和7年1月21日(火) 9:30～11:00 豊島区役所(東京都)
- ③令和7年1月21日(火) 15:00～16:30 香取市役所(千葉県)

■参加者

職名	氏名
総務文教委員会 委員長	芦谷 英夫
総務文教委員会 副委員長	沖田 真治
総務文教委員会 委員	村武 まゆみ
総務文教委員会 委員	岡本 正友
総務文教委員会 委員	永見 利久
総務文教委員会 委員	西田 清久
議長	笹田 卓

① NPO法人CRファクトリーについて

【視察先の概要】

- 目的を共有し、互いに共感し支え合う温かい共同体を「コミュニティ」を定義し、全ての共同体がコミュニティとなるよう、主として「共益組織（地域コミュニティ、サークルなど）」「公益組織（NPO、ソーシャルビジネスなど）」「中間支援組織（地域の市民活動支援センターなど）」の3つを対象とした組織マネジメントや人材育成の支援を行っている。

【主な事業】

- ① 「コミュニティマネジメントの教科書」読書会
組織づくり・コミュニティづくりの知識や考え方をトータルに学ぶ。
- ② 公式YouTube
動画で上手なコミュニティ運営を学べる。
- ③ コミュニティマネジメント塾
強く温かい組織づくりを徹底的に学ぶ連続講座
- ④ コミュニティキャピタル診断
組織・コミュニティ運営の現状を把握し成長を促進させる。



①-(1) 川崎ワカモノ未来PROJECTについて

～若者が主役になれるまち～

【事業の概要】

- 神奈川県川崎市の事業をCRファクトリーが受託して運営している。
- 川崎市をフィールドに、自分の身の回りや地域社会の未来づくりにチャレンジしたい高校生を対象としたプロジェクト。高校生ならではの視点でプロジェクトを立ち上げ、約2か月半の間に、実際にアクションを行っている。

【ワークショップの運営内容】

- ①アイデアソン(ヒラメキLab) → ②課題解決プロジェクト(カワプロCafe)
→③アクション(アクションDay) → ④成果発表会(ハナサクPresentation)
→⑤内省による振り返り(プリズムReflection)

①-② 考察(NPO法人CRファクトリー)

- ・ 浜田市においても、地域におけるまちづくり活動の推進を図る上で、まちづくりセンター職員、地域の担い手の人材育成、マネジメント力の向上を図る必要がある。
- ・ 浜田市まちなか交流プラザの機能アップを図るとともに、市内の専修学校3校への参加を募り、参画につながるような方策を検討する必要がある。
- ・ 島根県立大学との協働により地元産品を活用した地域活性化政策が提案されているが、地域への波及が不十分であることが課題である。
- ・ ふるさと納税返礼品の開発を支援し新商品開発を進めており、自治体との連携も進める必要がある。
- ・ 中間支援組織の重要性の認識、行政主導の課題解決から住民が主体性を持った課題解決の重要性の認識ができた。
- ・ 本市における中間支援組織への課題は今後、検討するべきである。

② 区民による事業提案制度について

(東京都豊島区)

【視察先の選定理由】

- 本市において、市民が直接、事業提案や考え方を発表する機会は、はまだ市民一日議会、地域井戸端会等があるが、執行側へ伝える機会がないため
- 行政が気が付かない地域課題を、住民が当事者性を持って提案し、直接解決に繋がる制度により、区内に暮らす住民の満足度にどのような変化があったのか調査研究するため



②-① 事業提案制度の概要

【事業の目的】

- ・ 従来の発想にとらわれない新たな視点から、課題の抽出及び課題解決を目指す。
- ・ 事業提案という形で、これまでつながりにくかった区民との新たなつながりを確保し、区民の区政への参画をさらに進め、区政を身近に感じてもらう。

【事業の概要】

- ・ 令和5年4月に就任した新区長のもと、区役所改革の第2弾として実施
- ・ 区政に係る諸課題に対する提案を区民から募集し、さらに区民が直接選ぶことにより、区民の声を直接政策に反映させ、区政への参画の新たな仕組みを構築する事業
- ・ 対象者は、豊島区内に在住・在勤・在学する人（年齢制限なし）、または豊島区内に拠点を有する企業・団体・学校等

②-② 考察(区民による事業提案制度)

- ・ 市民が必要と感じる地域課題を直接聞くことにより、政策立案能力の向上が期待できると感じた。
- ・ 浜田市における民意を汲み上げる制度では、参画意識が高まっていないと感じる部分もある。
- ・ 声を聴く機会は設けているが、予算が伴っていないため市民のモチベーションが上がらず、参画意欲が低調であることを本事業から感じ取ることができた。本事業を参考に制度化を検討すべき。
- ・ 地方自治は民主主義の学校とも言われ、市民参加は不可欠であり、「自治会離れ」が進む現状は地域の行政参加に逆行するものであり、市民が参加する仕組みづくりが必要だと考える。

②-(3) 【参考】子ども版広聴事業(子どもレター)

～区役所改革第1弾 区長に届く「子どもの意見」～

【事業の概要】

- 対象者：主に中学生以下の子ども
- 設置場所：区民ひろば等（区内施設 約120か所）
- 提出方法：職員がデザインした専用のレター用紙に記入し、職員に渡す
- 実績：463件（令和6年3月22日時点）
- 寄せられた手紙は、全て区長が目を通して

③

どんなことを書けばいいの？

たとえば…

- ボール遊びができる公園はありますか？
- 家以外で勉強ができるところがあったら教えてほしい
- スキップでまた遊べてうれしいです！

③

みゆき豊島区長に伝えたいこと

みなさんがうれしいこと・困っていること・もっとこうなるといいなあと思うことを教えてください！

⑤うちがわにおける

この用紙は中学生までの子ども用です。

☆書き終えたら①～⑥の順番で点線のところを折ってください。

みゆき豊島区長へ

より

①うちがわにおける

◇お名前： _____ ◇年齢： _____ 歳 (_____ 年生)

◇住んでいるところ： _____

にじげん 二次元コードで読み込むと、メールでもつたえられるよ

③ 市内公共交通の再編について

(千葉県香取市)

【視察先の選定理由】

- ・ 委員会の取組課題のテーマ「地域交通について～移動の自由をどうつくるか～」についての提言に向け、公共交通の再編に先進的に取り組んでいる事業内容の調査を行うため
- ・ 公共交通の再編に併せて新たに導入したデマンド交通「かとくる」の調査を行うため

③-(1) 公共交通の再編

【事業の目的】

- ・ 市内バス路線の廃止、統合に伴い交通空白地域等が広く発生することを解消するため

【事業の概要】

- ・ 「自動車の運転の労働時間等の改善のための基準」の改正に伴い、路線バス及び循環路線バスの維持が困難になり、路線の廃止が増えてきており、令和6年9月末に路線バスの3路線を終了。同年10月から代替交通として香取市デマンド交通「かとくる」の運行を開始した。



③-(2) デマンド交通「かとくる」の導入

【事業の目的】

- ・ 高齢者、高校生、市外からの来訪者などが市内を移動しやすい公共交通サービスの提供を図ること

【事業の概要】

- ・ 香取市内の一部地域を自由に運行できる「区域運行」と、決められた路線を運行する「ルート運行」の2つの形態による運行
- ・ 予約受付、配車等を主に担う運営主体は(株)パブリックテクノロジーズ、運行主体は市内の民間タクシー会社。行政は申請や交通会議の運営等を行う、官民連携の事業
- ・ 予約方法は電話とインターネット。全国でパブリックテクノロジーズが運営するデマンド交通の予約受付、配車等の業務をデジタル技術を活用。全国の受付業務を一括して行っている。
- ・ 運行する車両は8人乗り、6人乗りのワゴン車9台と予備車両2台を加えた合計11台を市が所有し、タクシー会社へ貸し出している。

③-③ 考察（市内公共交通の再編）

- 地域によっては市外(区域外)の運行を望む要望があり、区域外への運行も検討すべき
- 地域により地域交通の運行状況に差があることから、未実施地域への導入も検討すべき
- 複数ある運行事業の整理統合を図る必要がある。
- 全国的に事業化が進んでいる「ライドシェア」について、他の自治体の導入事例を参考にし、浜田市が主体となる持続可能な事業構築を検討する必要がある。
- 敬老福祉乗車券の交付区分の見直し、移動販売支援、デイサービスの買い物支援など、全体的な調査と事業間の調整が必要である。